私たち全員“プロフェッショナル”

埼玉電工組の本部職場を訪問

電気工事をする職人が工事士資格を持っているのは当たり前。しかし、組合の裏方を支える事務職員となると、事情も変わるのでは？どころが埼玉県電工組では、本部の女性事務職員5人のうち、なんと4人までが関連資格を所有。どうして、そのような状況が生まれたのか。工組を訪ねた。

女性職員ほぼ全員が有資格者

「技術持ってかっこいい」

話を聞いたのは、菊地眞弓さん（事業課）、岩井春子さん（総務課）、中島加津恵さん（共同購買課）、岡田良江さん（総務課）。それぞれ、第2種電気工事士、同、第2種電気工事士および建設業経理士1級、建設業経理士1級の資格を持つ。

全日電工連の会長も務めた故・小澤理事長の像が来館者を迎える埼玉県工組

はじめに、この仕事に就く前は電気工事職場にどんなイメージを抱いていたのか、また入ってから、それは変わったのかを尋ねてみた。

菊地さんは「男社会なので、泥くさいというイメージはすごくありました。入ってからも、現場は男が多いというのを常々感じます」という。想定内の答えが返ってきた。これに対し、中島さんは「はじめはどんな仕事をしているんだろうって思ってました。けれども家を建てるときに配線工事をしているんだとか、電気の引き込み工事をしているんだっていうのがだんだん分かってきて、〝あっ、技術を持っている人ってすごい、かっこいいじゃん〟という印象に変わりました」。

岡田さんは、以前は建築会社にいたため、似たような電気の職場にとくに違和感はなかったという。

左から菊地さん、岩井さん、中島さん、岡田さん

役員らが率先して環境づくり

そもそも彼女らはなぜ、資格を取得したのか。事務職員なのだから、取らなくても構わなかったはずだ。

「もともとスキルアップしたいという気持ちはありました」と菊地さん。その中で理事長や常務、専務といった役員が強力にバックアップしてくれたことが大きかったという。

岩井さんも「常務などが勉強会を開いてくれたり、実務研修会などにも参加させてくれたりしたので、頑張ろうという気持ちになりました」と話す。

さらに職場の取り組みが背中を押す。同工組では、企業などの社会貢献活動であるCSR活動の一環としてISO認証取得を掲げている。現在3つのマネジメントシステムを取得済みだが、そのうちの一つ、ISO9001は、顧客への高品質のモノ・サービスの提供を目指す。職員の技能向上も、その一環というわけだ。

菊地さん、岩井さん、中島さんの3人は電気工事士の資格を持つが、取得するには学科に加え、実技の試験にもパスすることが求められた。実技試験は、簡単にクリアできたのか。

「簡単じゃなかったです!」菊地さん、岩井さんの2人は口をそろえる。

中島さんも「ぶきっちょなので、途中で心が折れそうになりました」と笑う。それを支えてくれたのも、理事長をはじめとする役員たちだった。「ここを直せばいいんじゃないってアドバイスしてくれたので、そこを直すように努力しました」（中島さん）

学科試験に受かってからは、3人とも1カ月ほどは毎日、職場や自宅で実技試験に向けた練習に打ち込んだ。おかげで、はじめは1時間半ほどかけても満足にできなかったものが、20分ほどでできるように。岩井さんは、試験日に時計を忘れたにも関わらず、余裕で課題を仕上げることができたという。

合格では複雑な気持ちも

建設業経理士1級を取った中島さんと岡田さん。取得は、3年がかり。3科目のうち1科目ずつを毎年制覇するように取り組んだ。働きながらの3年間はいかにも長い。どうやって勉強を続けたのか。

中島さんは、不得手な「財務諸表」科目に「ずいぶんてこずった」。これぱかりは、組合内に教えてくれる人がいなかったので、身銭を切って専門の学校に行き勉強した。埼玉県工組には同2級のための「認定訓練」はあるが、1級用はない。「1級はどうしても受講生が集まらないので、収支が合わないから」と第1種定期講習担当の西川潤主任は説明する。

一方、岡田さんは、勉強時間が取れないことに苦労した。「働いて帰った後、家事などをしていると、時間がなくなってしまう」また、なかなか勉強に集中できないのも悩みだった。そこで休みの日は家事を少し休んだり、普段の日は他の家族が寝入ってから1時間とか2時間を勉強時間に当てた。

苦労を重ねてきただけに合格した時は2人とも「うれしかった」が「これで勉強しなくなってしまうのか」と考えると、「喪失感」や「さみしさ」も同時に感じたと話す。

組合員さんの話が分かる

資格を取得した今、4人はどんなことを感じているのか。

電気工事士の3人は「免状申請受付の仕事をしています。2種を申請する人もいるので、共感が持てます」（菊池さん）「会話の中で今まで答えられなかったようなことでも、答えられるようになりました」（岩井さん）「例えば、どこの職場がなぜこの電線を注文してきたのかということが分かり、とても役に立ちます」（中島さん）。

建設業経理士の中島さん、岡田さんは「職域が違うので、特に実務面で役に立っているということはありません。でも仕事で苦しいときに、あのときはがんばれたよなって思い返すことができる。資格って、自分への応援になるんじゃないかって思います」（中島さん）「仕事が経理なので全般的に役に立っていますが、努力がかかるものだから、ほかの人には…。ただ資格はどんなものでも取れば自分の自信になる。とくに若い人は挑戦した方がいいと思います」（岡田さん）。

とくに建設業経理士資格は、国や自治体の仕事を受注する際「企業などのランク付けの加点の対象になる」（菊池康之事業課長）。

資格者がいれば実務上、有利になることは間違いない。菊池さんは「うちの組合では、職員がスキルアップへのモチベーションを保ちやすい。トップの理事長や専務がそうした環境をつくってくれているのが大きい」と強調する。

最後にその沼尻理事長を一般職員の女性4人は、どう評価しているのか。

聞いてみると即座に「優しい」「女性のことを第一に考えてくれているので働きやすい」という明るい返事が返ってきた。

平成２９年２月２３日（木）電材流通新聞